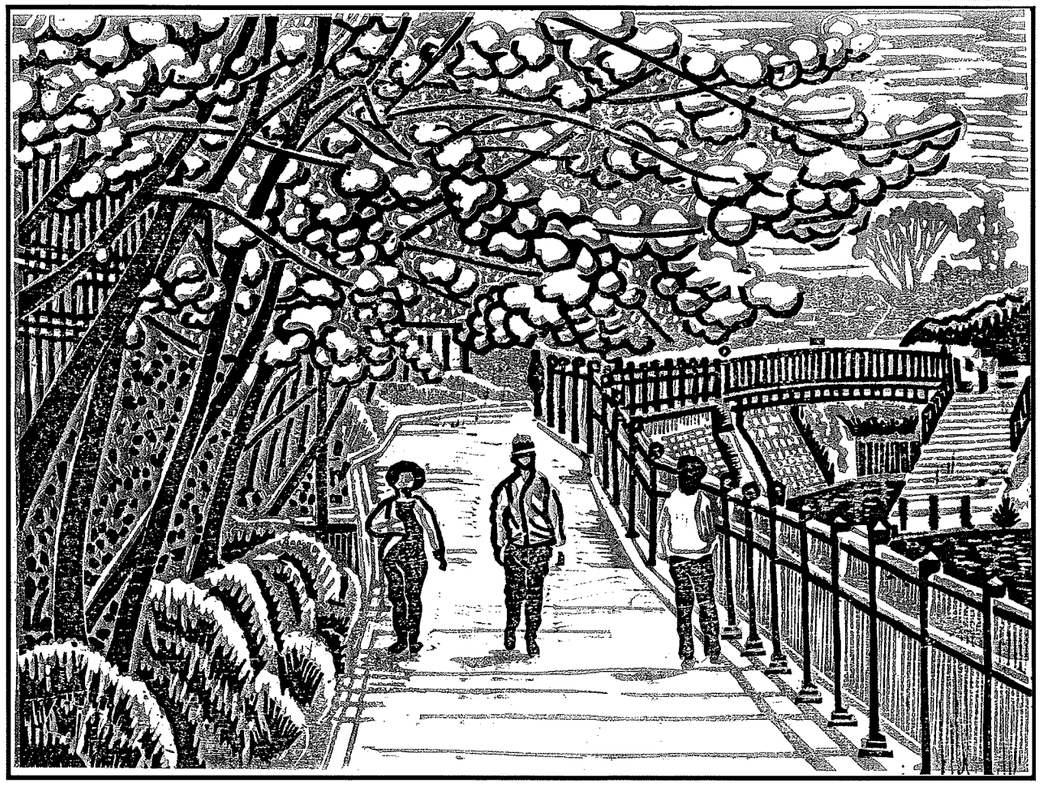
いたちがわらばん

鼬川・独川・川原番・瓦版　春号



版画　宗森英夫　　花のトンネルになるいたち川プロムナード

桜土手

♪「春の　うららの　隅田川・・・・」の歌詞で知られる滝廉太郎・作曲の『花』に歌われているように、河の堤防に桜が植えられている所は多い。

横浜市内でも大岡川の蒔田公園から下流の地域や柏尾川の戸塚駅付近など、花見のシーズンには多くの市民が花見を楽しむ。

いたち川でも、大いたち橋・小いたち橋から海里橋までの区間の両岸の桜が毎春、区民の目を楽しませている。両岸のプロムナードが整備され、歩き易くなっているため、夜桜を楽しむ人たちも少なくない。

柏陽高校の校庭の川沿い側では、桜の枝がプロムナードの上に広がり、満開時には花のトンネルができる。

風に散った花弁が、川面に浮かんで、ゆっくりと流れていく姿も、風情があってよい。水面に写る花の姿も趣がある。短冊を片手に、吟行するグループが目に付くのも、この季節です。

カメラを持ち歩く人が圧倒的に多い中で、スケッチブックを広げ、写生に熱中する人の姿を見かけるのも、この季節です。

寒さも去り、日に日に暖かくなる、この季節は、なんとなく心も浮き浮きしてきます。いたち川が、最も華やぐ季節でもあります。　（いもり）

切りとり線

この部分を切り取ってファイルすると便利です。

学校の活動報告（3）

本郷小学校　4年2組、和久井さんに出会う

「へ？　川って入っていいの？　本当に魚がいるの？」このせりふから、４年２組の川遊びは始まりました。

平成１２年４月６日、４年生は稲荷森から證菩提寺の丘まで散歩に出かけました。桜の花を楽しみ、稲荷森の水辺広場を子供たちに紹介するためです。稲荷森の水辺広場は春爛漫という言葉にふさわしく、緑が芽吹きはじめ、たくさんの花が咲き、暖かな日差しを充分楽しむことが出来ました。その帰り道、

「先生、ここにはたくさん魚がいるし、ザリガニも取れるんだよ」

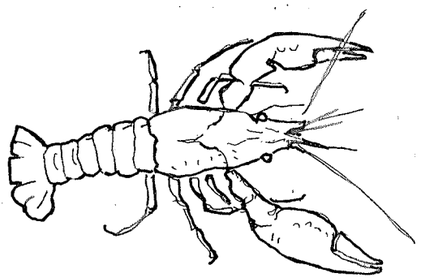
と、嬉しそうに話してくれる男の子がいました。彼は、４年２組では「生き物と言ったら Ｈ 君」と言われるほどの生き物好きです。その言葉を聞いていた子供たちの驚きと興味から川へ行くことになりました。

水辺広場には、水棲動物だけでなく、たくさんの植物にあふれています。そこに憩いを求める人たちがいます。ごみを片づけてくださる人がいます。管理し、水の動きを監視し続ける人がいます。その中で子供たちが過ごすということは、その生き物だけでなくまわりの方たちと関わりをもつということです。生き方を学ぶ総合的な学習の時間の内容となる要素がたくさんあるのです。

これまでに年６回、何気なく遊び、日記をつづってきましたが、和久井さんや、一緒にザリガニを取って下さった方の魅力にひかれ、川はいつも学級の中を流れるようになりました。「川の展示室」を作りたくなるほど、子どもは川を身近に感じ、和久井さんに近づこうとしているのです。この「川の展示室」が子供たちにとって、次の新しい日々の始まりであってほしいと願っているのです。

(和久井さんは、栄土木事務所からやって来て、子供たちにいたち川とつきあう糸口を与え導いてくれました、とのことです。)

(本郷小学校)



愛護会の活動報告（3）

いたち川（稲荷森の水辺）水辺愛護会より

稲荷森の水辺広場は、平成８年１１月２日に竣工式が行われました。

この日は、青葉橋(戦中・戦後の俗称は寺橋)の竣工式も併せて、雨降りしきる中、親・子・孫三代による渡り初めが古式にのっとり厳かに行われ、人々の目を奪いました。

水辺愛護会は平成９年５月に結成され、爾後、清掃・除草活動を忠実に実行し、水辺祭りも会員の協力により、順調に推移しております。

［平成１２年一年間の活動状況］

１．清掃活動

稲荷森の水辺広場は東屋(あずまや)があり、他の水辺愛護会とは異なった条件を備えております。

従いまして、常に清掃活動を行う必要があります。幸い熱心な熟年の役員の方が毎日水辺広場全域を見廻っており、東屋の他にもゴミの集積場所を設け、３～４カ月に一度は栄土木事務所の車で搬出しております。大量のゴミは梅雨時と秋の台風シーズンに集中しておりますが、ゴミがいかに多いかが判ります。

２．除草活動

除草は、年２～３回行い、草刈り機各 6～7 台と 25～6 名が参加して、東屋周辺ほか定められた場所の除草を行い、５月は除草終了後年次総会を、１０月は年間活動計画に従い水辺祭りのイベントも行っています。

今後も、水辺広場のＰＲを兼ねて、水辺広場は適宜実施していく予定です。

３．水辺祭りについて

ｱ、西上郷第一公園(仮称)のイベントへの協力

ワークショップ番外編で実施した、１月１５日のイベントには、稲荷森水辺愛護会・上郷町内会が全面的にバックアップし、サイト焼き用のダンゴに使う米の粉１５kgをはじめ、餅米 10 kg、トン汁 300 名分、飲物(含甘酒)など、他に木材片軽トラ２台分、１４、１５日に延べ 35 名の会員が応援にかけつけ、トン汁作り、ダンゴ作り、餅つき等に協力し、裏方として活躍して頂きました。

ｲ、稲荷森の水辺祭り

１１月８日に秋の除草活動を行い、並行して準備した水辺祭りを広場で実施し、甘酒、トン汁、餅つき(アンコ餅・キナ粉餅・カラミ餅)、赤飯と煮〆等昼食時に併せて、水辺祭りは老若男女合わせて延べ 150 名ほどが参加し、盛会裡に終了いたしました。

４．今後の課題

犬・猫の糞の放置、粗大ゴミの不法投棄が後を絶ちませんが、人々のモラルに期待しながら、清潔な水辺広場を目指して、老若男女小動物が共生できる水辺愛護会の目的にそって、清掃と除草を進め、幼児・子供が安心して楽しく集える場所としての環境作りを進めていきたいと思っています。　（文責　角田正一）

発行年月
2001年３月
（通刊１３号）

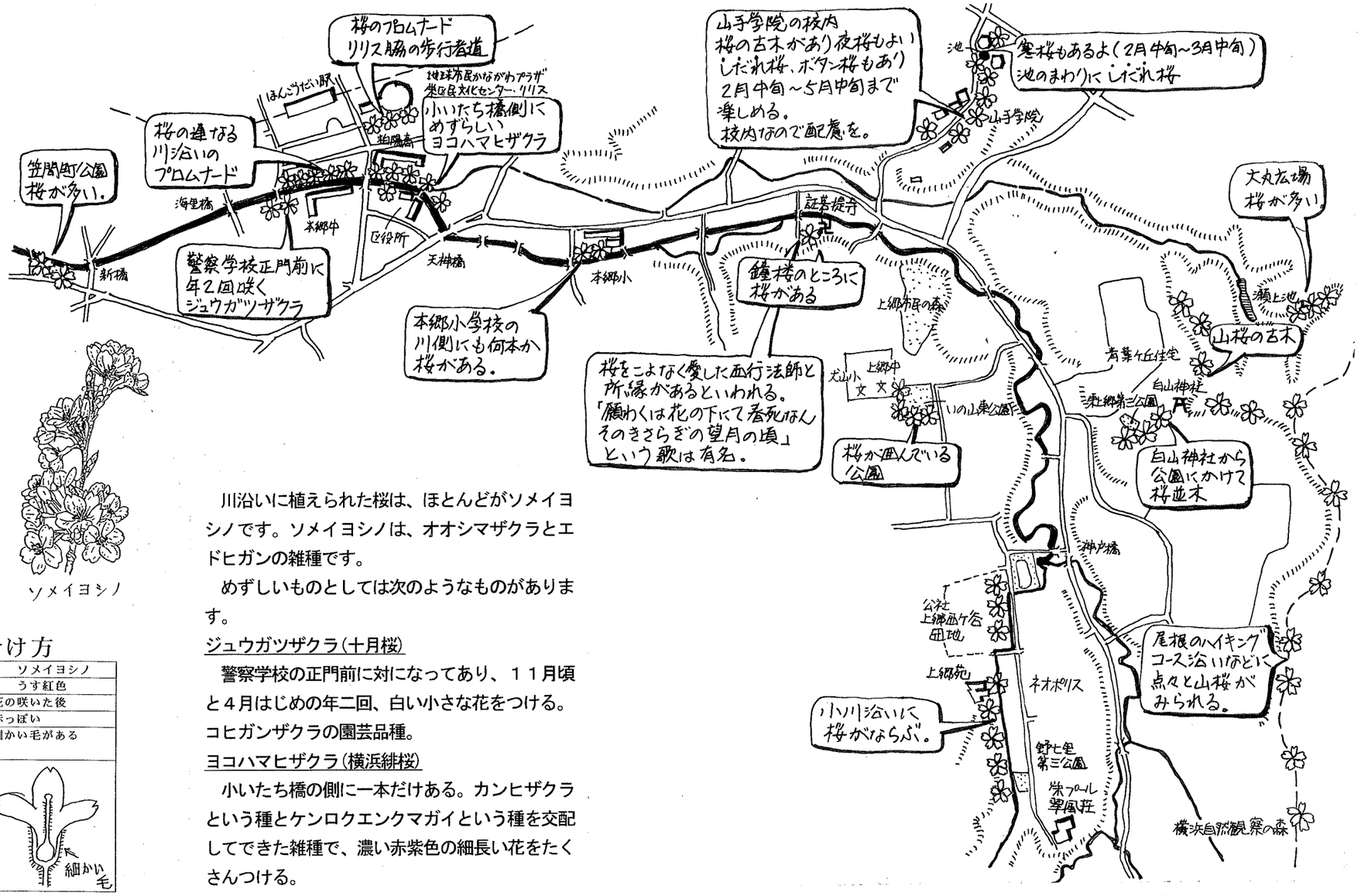
発行：独川ＯＴＡＳＵＫＥ隊（いたちがわおたすけたい）
ＯＴＡＳＵＫＥ隊事務局：栄区役所区政推進課企画調整係　〒247-0005　横浜市栄区桂町303-19
TEL 045-894-8331　FAX 045-895-2260
栄土木事務所下水道係　〒247-0007　横浜市栄区小菅ケ谷1-6-1
TEL 045-895-1411　FAX 045-895-1421
（お便り・お問い合わせはこちらまで）

いたち川周辺の桜

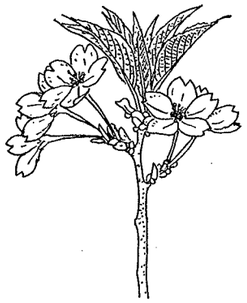
区役所付近の川沿いのプロムナードの他にも、いたち川の周辺には桜の美しいところがあります。

栄区に多い桜は、ソメイヨシノ、オオシマザクラ、ヤマザクラです。しだれ桜やうこん(鬱金)桜の類も数少ないですが見られます。

地図に示した場所の他にも、お気に入りの花見スポットがあれば、ぜひお知らせください。



ヤマザクラ



オオシマザクラ

ソメイヨシノ

川沿いに植えられた桜は、ほとんどがソメイヨシノです。ソメイヨシノは、オオシマザクラとエドヒガンの雑種です。

めずしいものとしては次のようなものがあります。

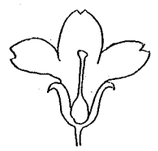
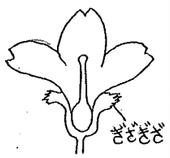
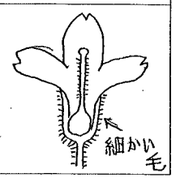
ジュウガツザクラ(十月桜)

警察学校の正門前に対になってあり、１１月頃と４月はじめの年二回、白い小さな花をつける。コヒガンザクラの園芸品種。

ヨコハマヒザクラ(横浜緋桜)

小いたち橋の側に一本だけある。カンヒザクラという種とケンロクエンクマガイという種を交配してできた雑種で、濃い赤紫色の細長い花をたくさんつける。

栄区に多いサクラの仲間の見分け方

	ヤマザクラ	オオシマザクラ	ソメイヨシノ
花の色	うす紅色～白	白	うす紅色
葉の出る時期	花といっしょ	花といっしょ	花の咲いた後
若葉の色	赤っぽい	緑色っぽい	赤っぽい
がくのようす	毛はない	毛はない 緑にぎざぎざがある	細かい毛がある
			

リレートークその一二
「いたちかわらばん」を読んで

私は、ボランティア活動に関心を持ち、『いたち川OTASUKE隊』の発行している『いたちかわらばん』の愛読者です。

前回のかわらばんを読んで菊田さんの文に同感！と強く思いました。『自然の秩序や法則性は無理やりねじ曲げられ、無視された』の一節です。人間は良かれと思ってやっているのでしょうが、あまりにも自然を無視しすぎています。『いたちかわらばん』を読むようになって、家の周りの様子を気にするようになりました。これも、年をとった証拠かな、と思いつつ、子供達に便利さだけを求めないで自然をもっと感じてもらいたい、と強く思います。

また、小学校の生徒が河川の掃除に参加してくれたことについて、もっともっと、多くの子供達に参加してもらい、自分たちの手で街をきれいにしようと感じてほしいなあと思いました。今の子供達はとても優しい心の持ち主ですが、他人言葉の暴力をとても怖がっています。また気持ちがあっても行動に移すことがへたです。

野七里小学校五年生の子供達のように、学校活動の中だけでなく、一人一人の力をいつも、どこでも発揮できるようにしてもらいたいなあと感じました。

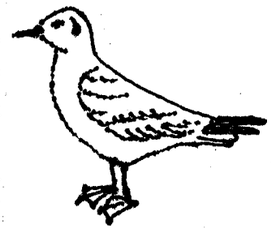
『ガーコの話し』も心温まるいい話でした。

私も勝手なことばかり言っていられないと、何か行動しなければと思わせる『いたちかわらばん』でした。

（東京都杉並区の音楽療法詩の森経営　伊藤洋子）

ガーコより・・・・「私、足を怪我して保護されています。心優しい方の手厚い看護のもと、元気を取り戻しています。川に戻れる日も近いと思います。待っていてネ」

いたち川周辺の生き物⑫
海から内陸に進入してきたユリカモメ



童謡『カモメの水兵さん』で親しまれているカモメ類は港湾や河口を生活の場にしている鳥ですが、冬には越冬のため川沿いに、かなり内陸まで上がってきます。

柏尾川では、毎年、大船駅の西口（観音様側）位までは上がってきていましたが、今年は戸塚駅付近まで上がっています。いたち川には、今までほとんどカモメ類は進入してきませんでしたが、今年はユリカモメが五〇～一〇〇羽くらい、天神橋付近まで進入してきています。

数年前、ウミネコが天神橋まで迷い込んできたことがありますが、その時は一羽だけでした。今年のように大群で進入してきたのは初めてです。カモメが増えすぎたためか、温暖化が進んだためか、今の所、原因は全く解りません。

ユリカモメは群で生活し、夕暮れになると、編隊を組んでねぐらの海に帰ります。集団生活をしているためカラスも太刀打ちできません。コサギもユリカモメに追い立てられ、ユリカモメのいる上流に五～六羽でかたまっているところが見られるようになりました。

ユリカモメは、今は冬羽で頭部は白いのですが、四月頃には黒褐色の頭をした夏羽に変わります。くちばしや足は赤く、背中は淡い灰色で翼の先端は黒い。大きさは全長四〇㌢でハト位です。渡り鳥ですから、この号が発行される頃には見られなくなっているかもしれません。

（いもり）

切りとり線